

観光振興セミナー2024

オープン・ラボ Online

～観光の新たなカチ・カタチ～

地球コクリ！2024

ヒト・カネ・シゼンの地域内循環を促す
「地域共助コミュニティ」形成

2024年6月13日（木）

株式会社リクルート ジャらんりサーチセンター

研究員 兼 サステナビリティ推進室

コクリ！プロジェクト創始者 三田 愛



▲本講演資料はこちらのQR
コードからDLいただけます



株式会社リクルート じゃらんリサーチセンター 研究員
兼 サステナビリティ推進室
「コクリ!プロジェクト」創始者
英治出版 株式会社 フェロー

三田 愛 (さんだ あい)

米国CTI認定プロフェッショナル・コーチ (CPCC)



しごと

人材系営業 コ・クリエーション (共創)

人事

研究員

海外提携
新規事業

生物多様性
SDGs

コーチング

ファシリテーション

経済産業省・
国土交通省・内閣府
委員

暮らし

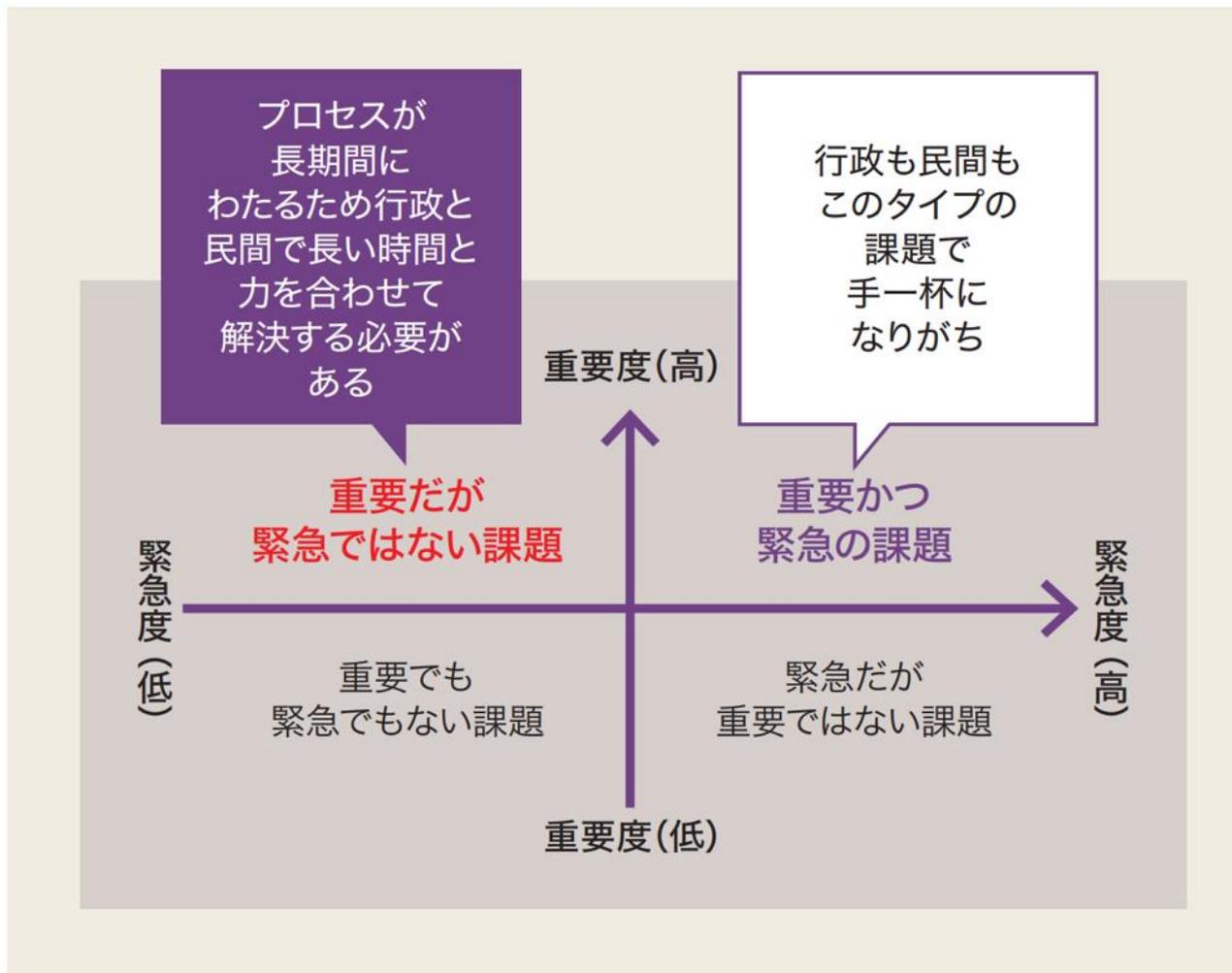
2拠点居住・移住
目黒&葉山
→ 千葉いすみへ移住

拡大家族

15歳男児の母

書道師範

華道師範



脱炭素・サステナブル・公正な移行・ウェルビーイング・リジェネラティブ等
次世代型のまちに必要な「重要だが緊急ではない課題」は手つかずのままになりがち

ハード（事業・政策）だけをつくっても、
そこに魂が入っていないと、継続しない。うまくいかない
地域外事業者や専門家が中心で創られた、一見素晴らしい計画が、
地元住民の思いが反映されていないこともある

次世代型のまちづくり
（脱炭素・サステナブル・公正な移行・ウェルビーイング・リジェネラティブ等）は、
過去の延長上の未来ではないからこそ
人の「価値観」から変容していく必要がある



行政＋民間の「共助コミュニティ」による

地域メンバーの「意識と関係性（ソフト）の変容」と

それによる本質的で持続可能な「事業・政策（ハード）の創造」

両方が必要だ

（特に忘れられがちな「ソフトの変容」を強調したい）

- ・とまらない人口減少、担い手不足
- ・事業者のタコツボ化
- ・行政主導のまちづくりへの疲弊感
- ・多様化した課題やニーズへの対応の必要性

- ・これまで産業、教育、移住政策等に力を入れてきたが、施政方針で“3つのカン”
「ひとの還流・暮らしの環境・里山里海の循環」
初めて環境系に重点を置く
- ・脱炭素／生態系など環境への配慮・対応の高まり

行政だけの「公助」でも
民間だけの「自助」でもない
行政×民間の「共助」の必要性

施政方針に掲げられた「里山里海の循環」

あたりまえの豊かさを活かし その味わいを次の世代に繋ぐ島

★樹木の間から木漏れ日が差し込み、元気よく野山を歩き回る親子の牛たち。手入れの行き届いた美しい山々を背景に、ひと里には、しゃん山と田圃が広がり、豊穡の浜へと繋がる長閑な島、海士町。代々家族で見てきた「あたりまえ」の風景と恵み、その価値を子供達や観光客など、次の世代にしっかりと繋いでいくための施策を推進します。

★海と山の循環をより豊かにするため、これまで活かしきれていなかった地域資源・自然資本にも着目し、「ないものはない」の精神で環境負荷の低い再生可能エネルギーの普及促進を図り、脱炭素の取り組みを積極的に行います。

官民共創のステークホルダーで里山里海の循環実現を目指した推進委員会
共助コミュニティ「里山里海ぐるぐる会議」の発足

- ① 地域の**キープレイヤー**で、本人が変化したとき**まちへの影響力が大きい**
「**レバレッジ**」になる人
- ② 多様な意見・情報を集め、地域の総意に近づけるため
「**行政にあまり好意的でない人**」も選ぶ
- ③ **男性と女性、地元で生まれ育った人と移住者**が「だいたい半分ずつ」
農業・漁業・畜産業・林業・ガソリンスタンド経営・観光・環境・福祉・
起業家・主婦など「**多様な職業や立場**」のメンバー
結果的に、普段挨拶以上の会話をしない関係性のメンバー構成に
- ⑤ こうしたバランスを意図的に作り上げるため「**あえて公募せず**」
コアチームがメンバー選定

主体：海士町役場 [行政]

協力：交交 株式会社
(自然エネルギー導入・未利用資源活用等) [民間]

支援：じゃらんリサーチセンター
(研究員三田 + パートナー山田 博氏)

項目	一般的な行政主体の会議	里山里海ぐるぐる会議
実施場所	固定(会議室など)	流動的(時に屋外で実施)
リーダーシップ	意思決定重視	関係性重視
メンバーの選び方	各組織長・有識者など	多様なキープレイヤー
事務局の役割	司会・進行	ファシリテーター
外部支援者の役割	解決方法や専門知見を提供	参加者の変容を支援
テーマ	事務局が起案	参加者が主体的に設定
実施期間	期間が決まっている	期間を決めずに継続
実施時期	計画に沿って実施	必要に応じて随時実施
発言の種類	所属や専門性に準じた発言	人としての率直な質問や意見
成果物の方向性	大きな計画や方向性	具体的な打ち手と実行

- 1 メンバーが**主体的にテーマ**を決め、具体的な**打ち手を実行**する
- 2 事務局（コアチーム：役場+交交）は、自ら意思決定するのではなく**関係性重視のマネジメント**で、メンバー主体を引き出す**ファシリテーター**
- 3 外部支援者は、課題解決方法や知見を提供するのではなく**メンバーの変容を支援**
- 4 会議は定期的な事前計画に沿った開催ではなく、必要に応じて**随時開催**
- 5 問題解決と**対話**のバランス、考えると**感じる**のバランスを取るため会議室内の議論だけでなく、里山里海の循環を感じる**自然の中で「五感を開くワーク」**も実施



「里山里海ぐるぐる会議」の様子 円座になり、時にはたき火をしながら、関係性を深めていく



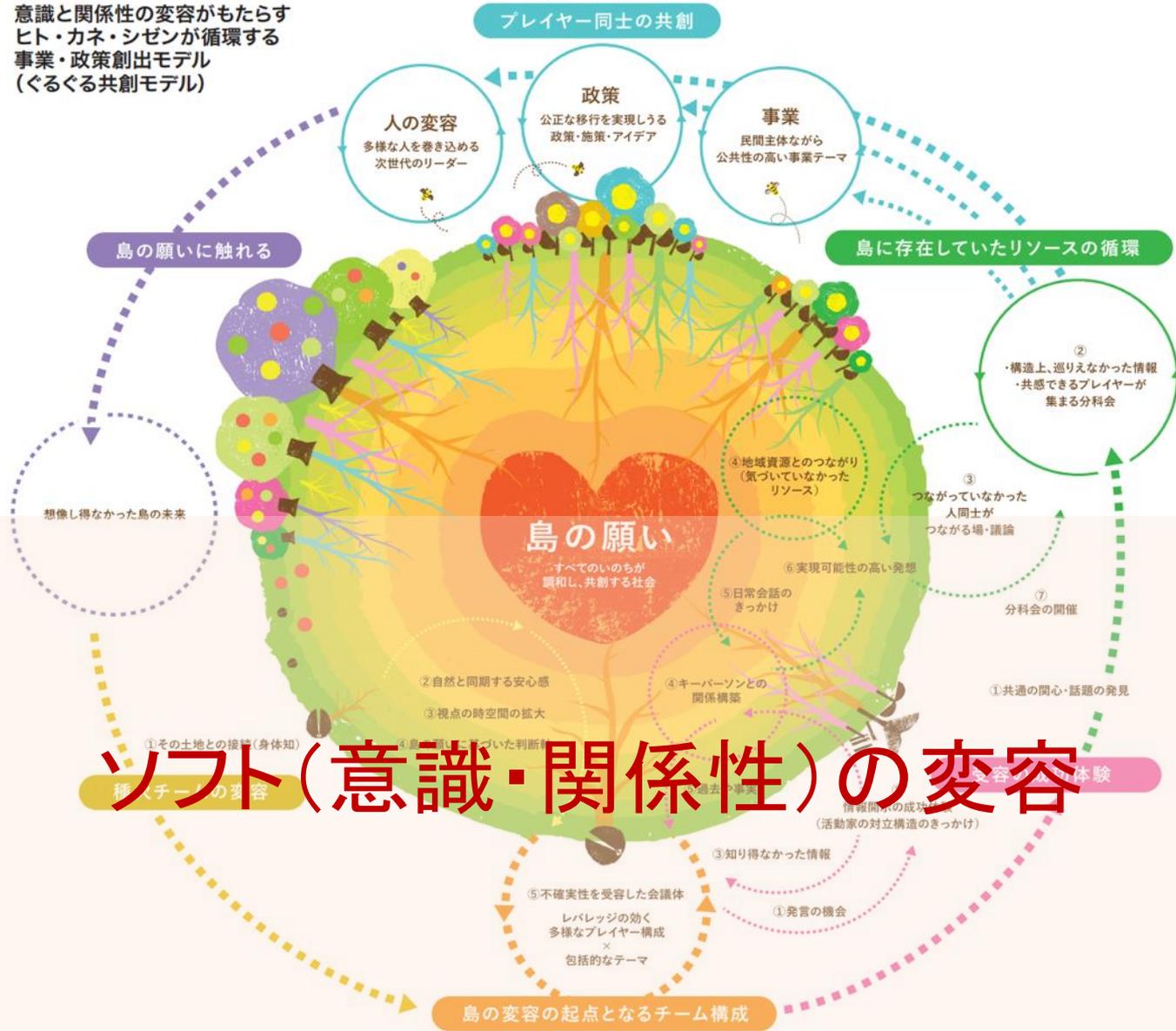
島の全体像を感じられる山の上で行った「里山里海の循環を感じるワーク」や「五感を開くワーク」



島の願いを聴く

遠土町×地球フリ!

意識と関係性の変容がもたらす
ヒト・カネ・シゼンが循環する
事業・政策創出モデル
(ぐるぐる共創モデル)



ソフト(意識・関係性)の変容

意識と関係性の変容がもたらす
ヒト・カネ・シゼンが循環する
事業・政策創出モデル
(ぐるぐる共創モデル)

プレイヤー同士の共創

島の願いに触れる

島に存在しているリソースの循環

ハード(事業・政策)の創出

想像し得なかった島の未来

島の願い

すべてのいのちが
調和し、共創する社会

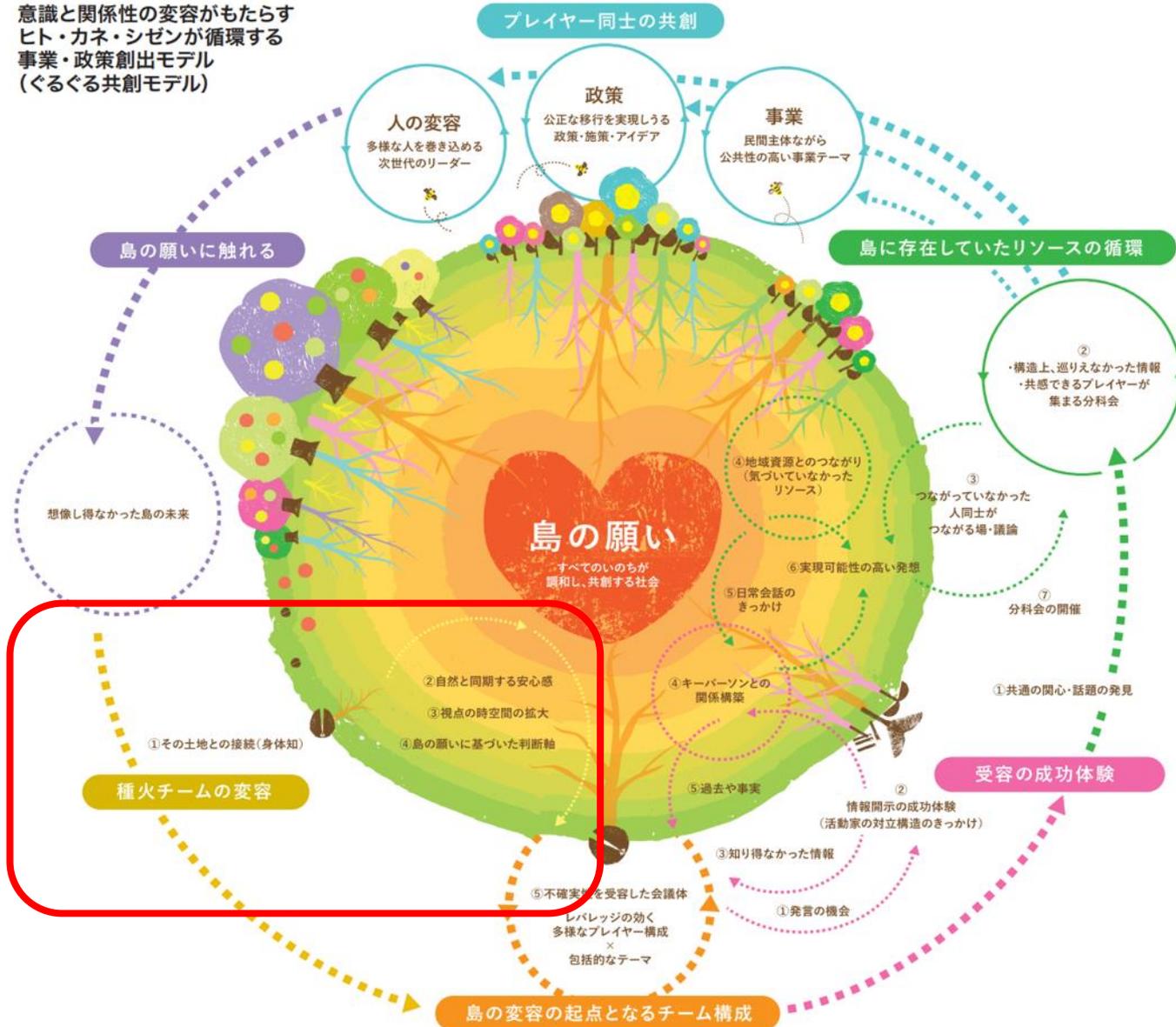
種々チームの変容

ソフト(意識・関係性)の変容

体験

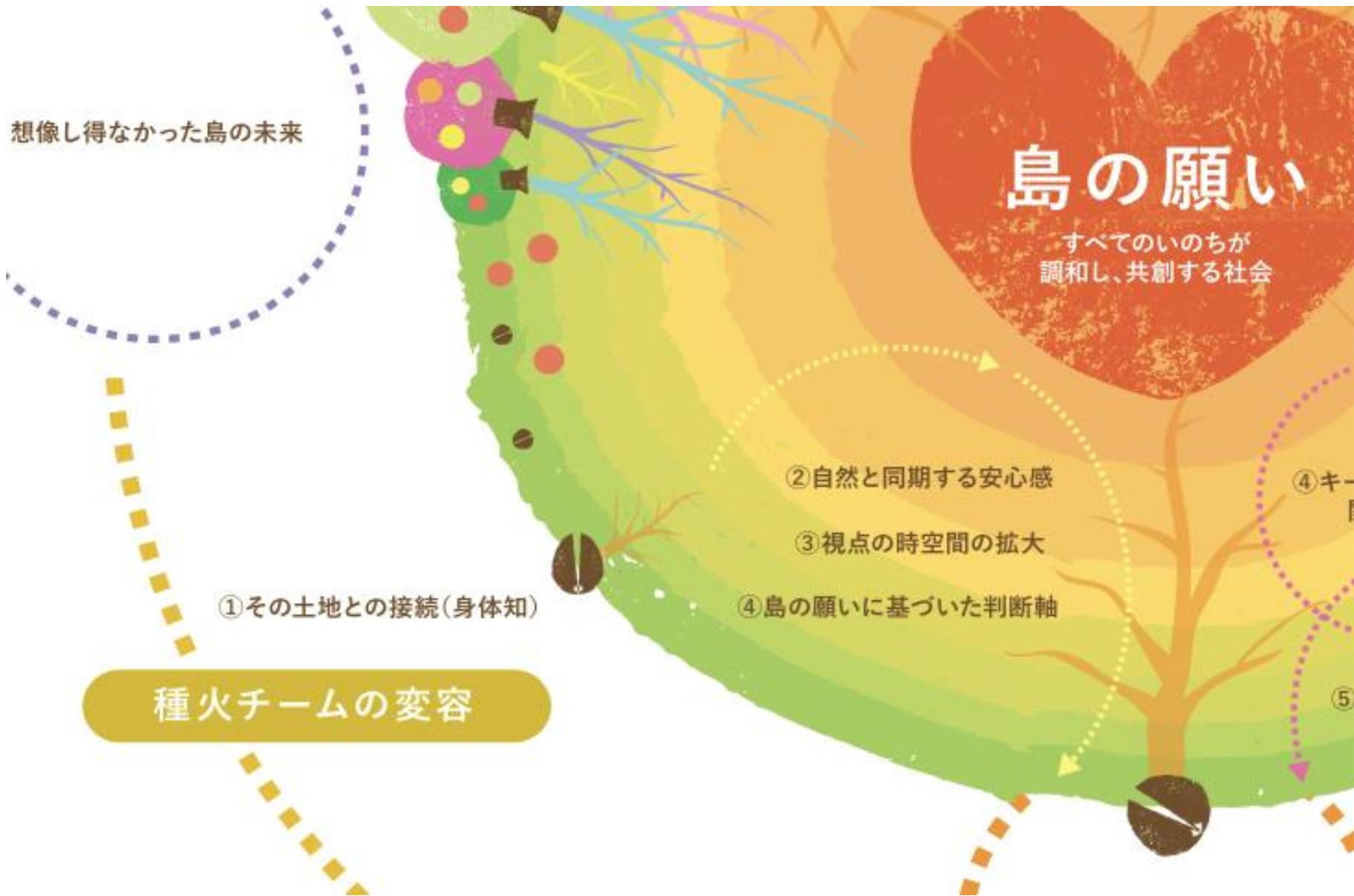
島の変容の起点となるチーム構成

意識と関係性の変容もたらす
ヒト・カネ・シゼンが循環する
事業・政策創出モデル
(ぐるぐる共創モデル)



1

①種火チーム（コアチーム／事務局）の変容



島の全体像を感じられる山で「里山里海の循環を感じるワーク」



島の全体像を感じられる山の上。この集落の人は年に2回訪れる（氏神様の奥の院があるため）が、9割の人が初めて訪れたという



海から蒸発した水が雲になり、雨をふらせ、山に染み渡り、田んぼに流れ、また海に戻る（岩牡蠣養殖の栄養分）…と、全てが繋がっていることを理解していく



日常生活で田んぼはみている、ここからみると、いかに海・山・川・里・田が繋がっているか、一つが汚れると、他も汚れていくかが分かる



コンクリートで固めた場所は、山からすると口と鼻を塞がれて息ができないようなもの。時に土砂崩れにつながることも



耳を澄ます。…とこれまで聴こえてこなかった音（海の声、鳥の声、風の音、葉っぱが落ちる音まで聴こえたという人も）が聴こえてくる



私たちはいつも「ハードフォーカス（焦点を絞って凝視）」状態。「ソフトフォーカス（ぼんやり全体を眺める）」にすると、広く多くのことを受け止められる



裸足になり、大地に直接触れ、体内に滞留した電気が放電され（アーシング）、素肌で自然を感じる



思い思いの場所で、島と共に、一人の静かな時間を過ごす

山を下り、いつも通る田んぼの横にある、湧き水を飲む
田んぼも湧き水も知っていたが、循環を理解した後だと感覚が変わっていく



想像し得なかった島の未来

島の願い

すべてのいのちが
調和し、共創する社会

①その土地との接続(身体知)

②自然と同期する安心感

③視点の時空間の拡大

④島の願いに基づいた判断軸

④キ

⑤

種火チームの変容

①種火チーム（コアチーム／事務局）の変容



コアチームの二人の変容
 山を下りた後の表情・感覚・思考が変化
 「この状態で会議をすると、質の違うアイデアがでそう…」
 「賞味期限（感覚の劣化）はあるんですか？」

“毎日”海岸や庭で5~10分、視覚・聴覚・触覚など五感を広げ、
 島とつながる（島の願いを聴く）ワークを続ける

渡辺 祐一郎氏／海士町町役場 里山里海循環特命担当課主査

大野 佳祐氏／(株)交交 代表取締役／海士町町役場 里山里海循環特命担当課長



目的

自分は地球にいかされている、生態系の一部であることを感じ（思い出し）、自然から学ぶなかで、自分が人間社会で、不自然な思考・動きをしていたことに気付く。視点の時空（時間軸・空間軸）が広がり、個人の利害をこえた“島の願い”を感じ、不確実性を積極的に受容できるようになる

Before 実際起こった変化 After



- ・ しっかり準備しないと気が済まない
- ・ 会議のゴール設定をし、計画的に会議を進める
- ・ “かたい役場の人”という印象

- ・ 「ゴールを決めずに会議に臨むほうがよい結果が出ると感じている」
- ・ 「自分の価値基準が、正しいかどうか分からないと思いながら対話している」



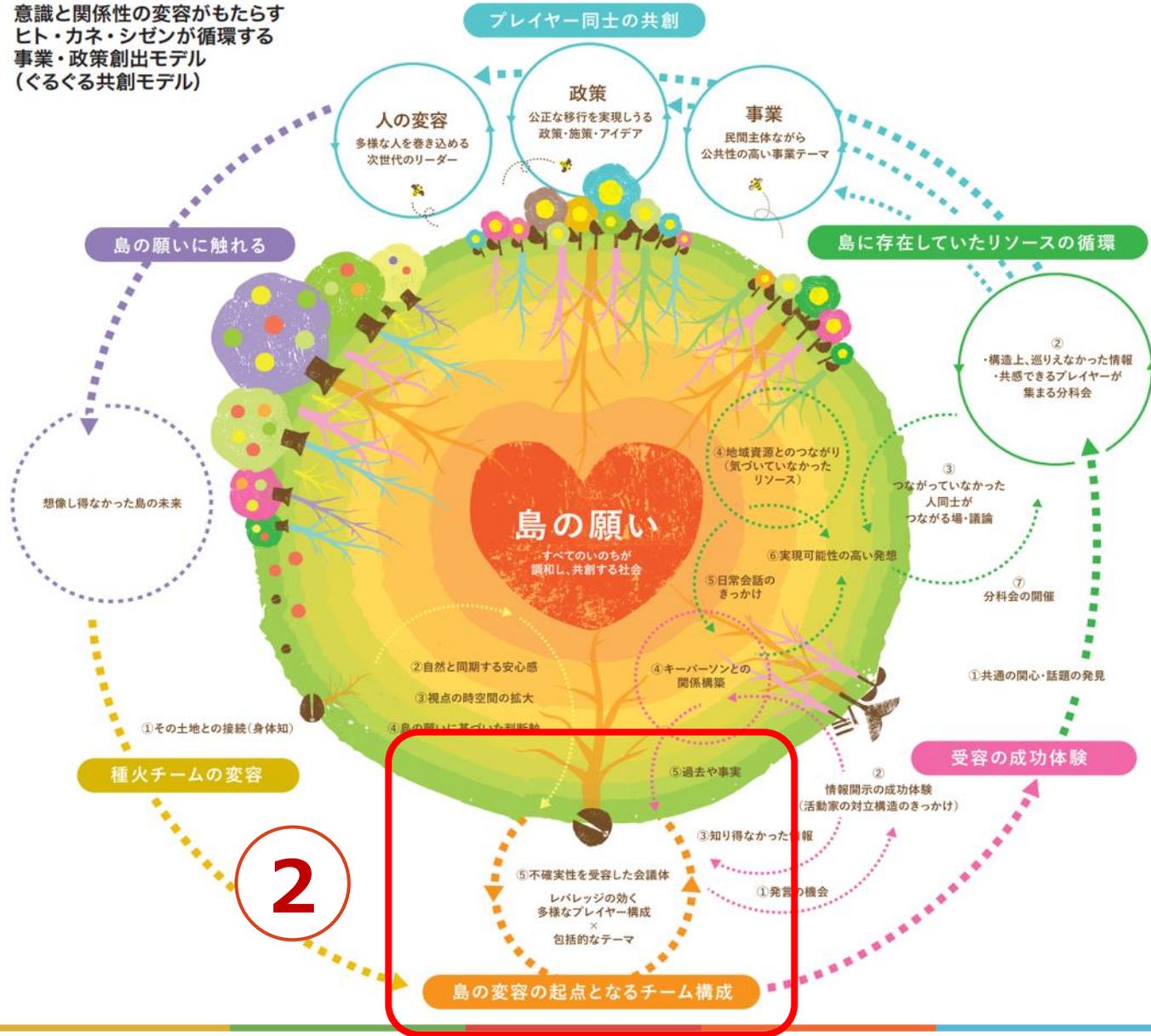
- ・ イノベーター型リーダー
- ・ 沈黙に耐えられない、待てないため会議で沈黙だとすぐ発言をする

- ・ 「感じられていなかったことを感じるように」
- ・ 「自分が他の人の発言機会を奪っていたと気づき、慌てず時間をかけ受容できるように」
- ・ 「周囲に許容されている感覚を持つように」
- ・ 「余計なことを考えず、子どもの頃に近い感覚で人と関われるように」

意思決定重視から **関係性重視のマネジメント** になり、委員メンバーの **主体性を引き出せる** ように。
ぐるぐる会議は「**メンバーが自分の意見を皆に聞いてもらえる場**」

(表面的ないいことをいうのではなく「実は・・・」という **本音**や、**知られざる情報**が流通し始める)

意識と関係性の変容がもたらす
ヒト・カネ・シゼンが循環する
事業・政策創出モデル
(ぐるぐる共創モデル)



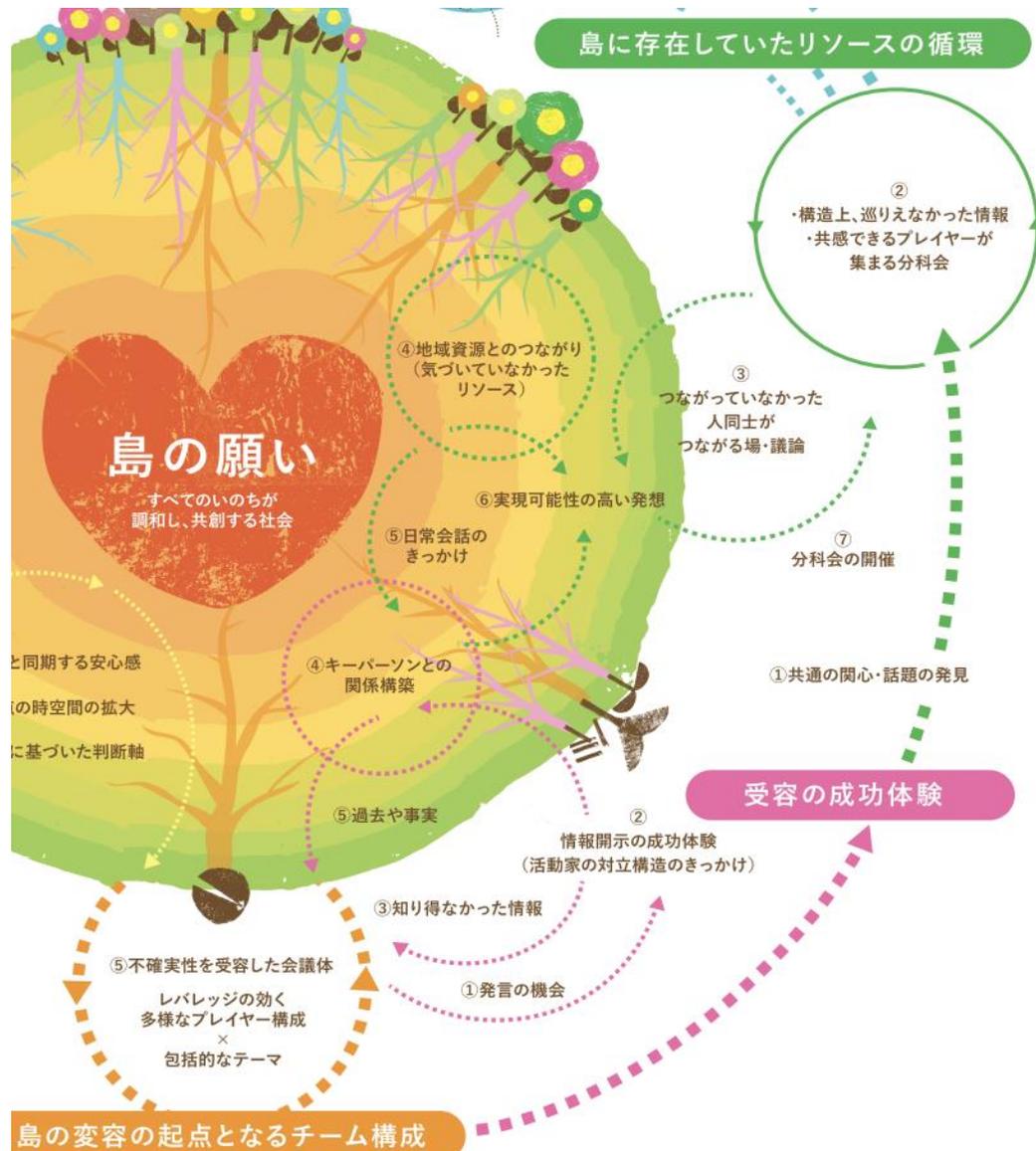
① 地域の**キープレイヤー**で、本人が変化したとき**まちへの影響力が大きい**
「**レバレッジ**」になる人

② 多様な意見・情報を集め、地域の総意に近づけるため
「**行政にあまり好意的でない人**」も選ぶ

③ **男性と女性、地元で生まれ育った人と移住者**が「だいたい半分ずつ」

④ 農業・漁業・畜産業・林業・ガソリンスタンド経営・観光・環境・福祉・
起業家・主婦など「**多様な職業や立場**」のメンバー
結果的に、普段挨拶以上の会話をしない関係性のメンバー構成に

⑤ こうしたバランスを意図的に作り上げるため「**あえて公募せず**」
コアチームがメンバー選定



今まで、有機農業の“ゆ”の字も
知らなかったんですよ。知識は
増えて、他業種のことを知った

逆に漁師仲間内では常識なことを、
まちの人たちが知らないことが
分かり、自分たちの知識を周囲に
伝える大切さを知った

自分のやりたいことを実現する
ために、前提が違う人をどのよう
に巻き込めばよいか、話し聴いて
もらえる成功体験になった



大窪 諒慈氏
飯古建設定置網事業部
漁労長

意識と関係性の変容がもたらす
ヒト・カネ・シゼンが循環する
事業・政策創出モデル
(ぐるぐる共創モデル)

プレイヤー同士の共創

島の願いに触れる

島の存在意義の循環

ハード(事業・政策)の創出

想像し得なかった島の未来

島の願い

すべてのいのちが
調和し、共創する社会

種々チームの変容

ソフト(意識・関係性)の変容

体験

島の変容の起点となるチーム構成

背景・課題

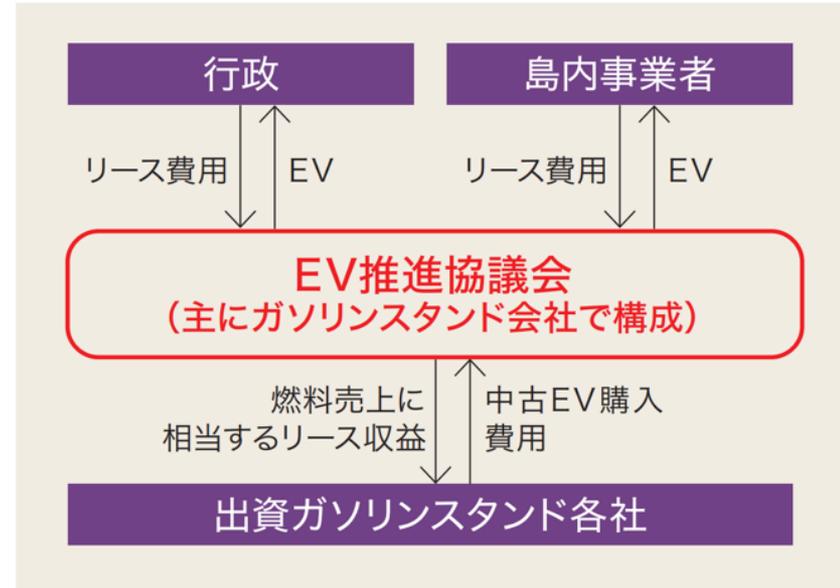
- ・脱炭素化に向け、行政はEV推進を行う必要あり
- ・一方、EVを広めると、地域のエネルギーを支えてきたガソリンスタンド会社を切り捨てかねない（地元ガソリンスタンド会社からの反発）

解決する事業

- ・新たに「**EV推進協議会**」を発足
- ・ガソリンスタンド会社などが共同で出資中古EVを購入し、**リース収益**を得る
- ・行政や地域内事業者にEVをリース貸出し

ポイント

- ・化石燃料を扱う**ガソリンスタンド会社が利益を得られる**形でのEV推進（ガソリン車が減る減益→EVリース収益）
- ・地域経済を守る「**ジャストランジション（公正な移行）**」実現
- ・**地域内の経済循環**を意識し、ガソリン代の地域外流出分を地域内で巡る**経済設計**



事業②伐採木炭化施策

背景・課題

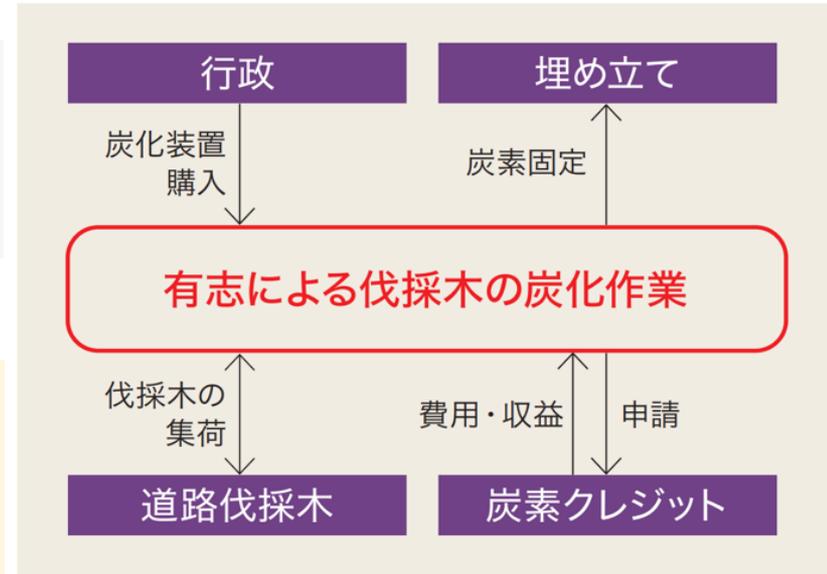
- ・ **道路伐採木**が、年間1000トンも発生（ぐるぐる会議内情報共有で明らかに）
- ・ **ゴミ焼却炉の能力限界**

解決する事業

- ・ 道路伐採木を焼却炉で焼却すると、二酸化炭素(CO2)排出になるが、炭化装置で炭にする過程で大気中の**CO2を炭素固定**（CO2をむしろ減らす）
- ・ 炭（バイオ炭）を土壌に埋めると、J-クレジット制度を通して**収益を得られる**
- ・ **町役場x地元建設業者x交交x地元有志**の協業

ポイント

- ・ ゴミだった伐採木を**金銭に変える資産**として活用
- ・ 燃やす**ゴミを減らせる**まちへのメリット
- ・ 森林の**維持管理費用**を、独自で賄える可能性も
- ・ これほど大量の道路伐採木があり、困っていることは、**ぐるぐる会議がないと知り得なかった**



背景・課題

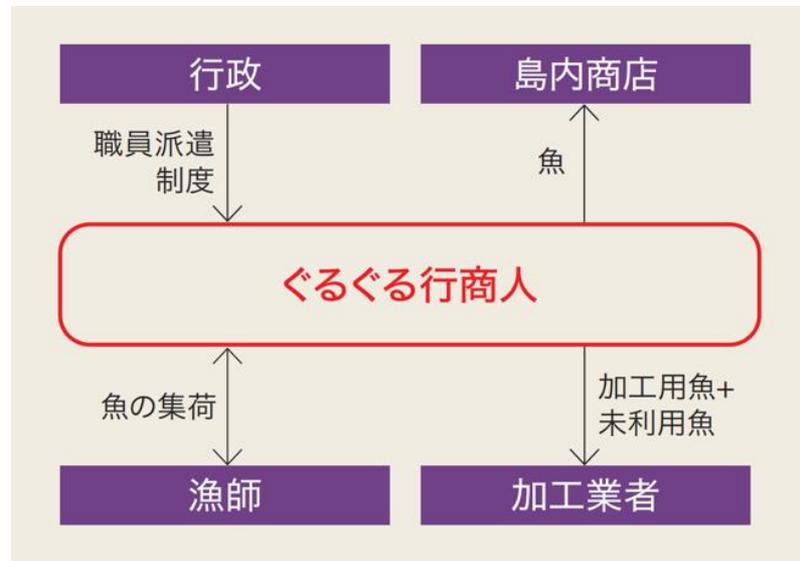
- ・大量の「未利用魚」。特に離島の場合、割高な流通コストを乗せても利益がでる高級魚が販売の中心で、本土で販売できるアジ、イワシ、サバなども未利用魚に
- ・10数年、漁師で未利用魚販路に取り組み続けてきたが、成功しなかった（収穫時間・量の予測がつかず、安定供給できない／漁港がまちと距離があり不便etc.）
- ・地域内の魚の自給率の低下への危機感（未来を担う子どもの魚嫌いも）

解決する事業

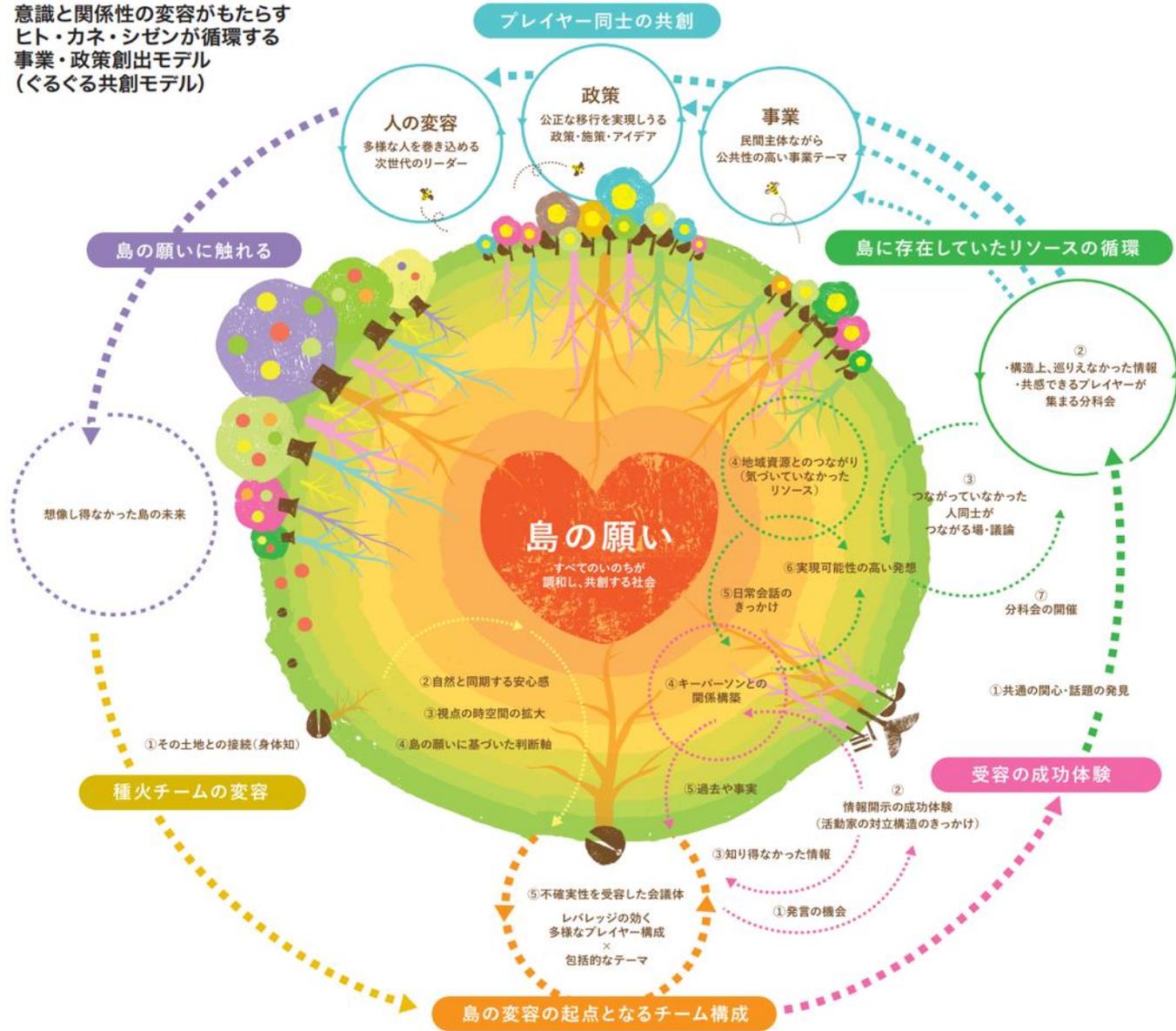
- ・町役場が「ぐるぐる行商人」を派遣、地域内商店・加工業者に流通・販路開拓
- ・未利用魚を活用したペットフード事業検討

ポイント

- ・事業者単体（漁師）で10数年解決しなかったタコツボ問題を、多様な関係性構築・情報や政策の共有など簡単な施策で解決
- ・魚の命を無駄にしない
- ・お金に変え、地域経済を潤す
- ・地産地消を根付かせる



意識と関係性の変容もたらす
ヒト・カネ・シゼンが循環する
事業・政策創出モデル
(ぐるぐる共創モデル)



意識と関係性の変容をもたらす
ヒト・カネ・シゼンが循環する
事業・政策創出モデル
(ぐるぐる共創モデル)

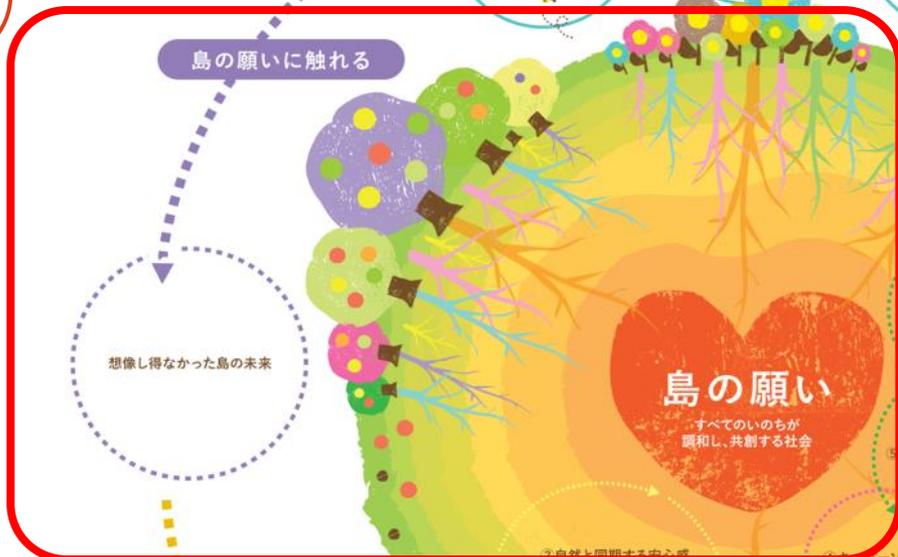
プレイヤー同士の共創



島に存在していたリソースの循環



島の願いに触れる



想像し得なかった島の未来

島の願い

すべてのいのちが
調和し、共創する社会

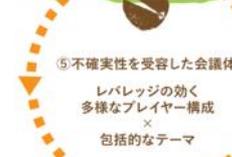
受容の成功体験

② 情報開示の成功体験
(活動家の対立構造のきっかけ)

種火チームの変容



島の変容の起点となるチーム構成



5

「今までの私は行政の都合ばかり考えて**人口を増やすことなど経済視点**に偏りがちなところがありました。しかし、島や自然を**身体で意識する**ようになって**何が島にとって一番良いことなのか**をより強く考えるようになったのです。

移住者向け住宅を例に取り上げると、私は最近これまで以上に**移住者の幸せや暮らしやすさ**を考えた住宅づくりを意識するようになりました。

人口増加を意識しすぎると、住宅建築の**スピードや価格**を最優先しがちです。しかしそれでは、移住者の**定着につながらない**可能性があります。**移住者が長く暮らしたいと感じる家**を追求することが、私の大事な役割の一つだと気付きました」

渡辺 祐一郎氏 / 海士町町役場 里山里海循環特命担当課主査

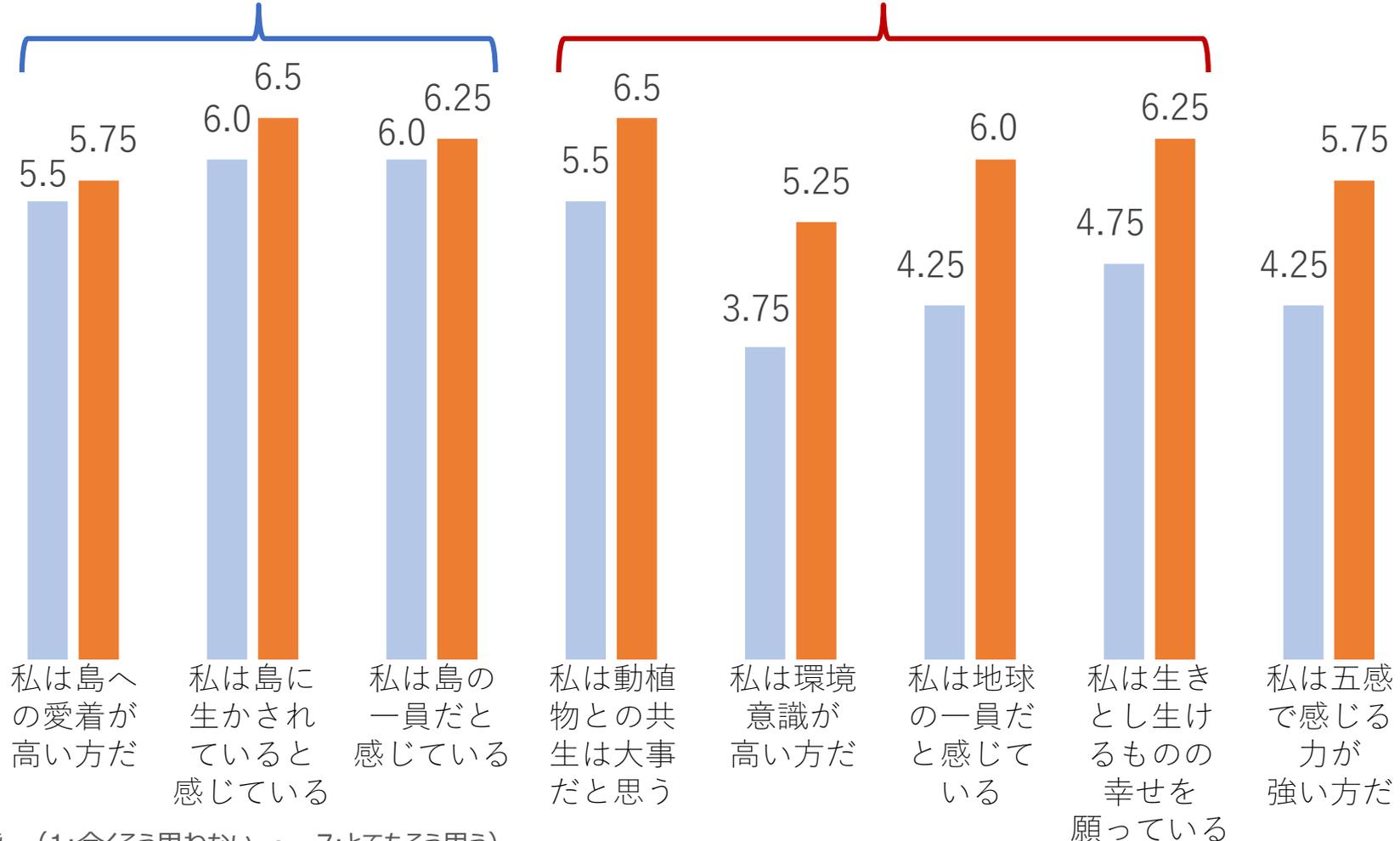
元々**行政に好意を抱かず**、誰もが行政コミュニティに参加するはずがないと思っていた、**地域で影響力が強い**人に、あえて会議メンバーに声がけ。徐々に周囲とうちとけ、最終的には行政との協業モデルである**「EV推進協議会」のキーパーソン**に。

地域内関係性も良好になり、偶然まちで会った時に話す内容が全く変わっている

地元愛はもともと高く
さらに向上

地球や他のいのち・生態系へ
の想いが向上

五感で感じる
力も向上



7段階 (1:全くそう思わない ~ 7:とてもそう思う)

■ 事前 ■ 事後

出所: じゃらんリサーチセンター

「ヒト・カネ・シゼンの地域内循環を促す地域共助コミュニティ形成研究 振り返り調査」(2024年)

島の願いを聴く

女性性

女性性を引き出す

時空を広げる
時間軸（7世代）空間軸（島）

生態系

生態系の循環を感じる

島の人々が、暮らしの中で大事にしてきた場所

自然の営みを人間が少しだけ手伝う

問題解決と対話のバランス

右脳と左脳、女性性と男性性

考えると感じるのバランス

日常生活とは違う視点転換をし、時空を広げて“感じる”ことで
個人の利害をこえた、島の願いに基づく発想に



地球の仲間としての人間のお役目を思い出し、
人間も地域も地球も幸せな、最高にウェルビーイングな社会を
皆さんと共に創っていただけたら幸いです

観光振興セミナー 2024

オープン・ラボ Online

～観光の新たなカチ・カタチ～

ご視聴いただきありがとうございました

本講演内容に関するお問い合わせは
研究員 三田 愛に
お尋ねください

株式会社 リクルート
じゃらんリサーチセンター
jalan_rc@r.recruit.co.jp



▲本講演資料はこちらのQR
コードからDLいただけます

【ご注意：本資料の転載・複製での利用について】

- 本資料は、株式会社リクルート（じゃらんリサーチセンター）の著作物であり、著作権法に基づき保護されています。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。

事前に当社までご連絡ください。使用用途によって転載・複製をご遠慮頂く場合もございます、予めご了承ください。

※問い合わせ先

[メディア・報道機関の皆様]株式会社リクルート 広報担当 <https://www.recruit.co.jp/support/form/>

[その他企業・自治体・一般の皆様]じゃらんリサーチセンター事務局 E-mail: jalan_rc@r.recruit.co.jp

- 本資料は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料を利用する場合にはお客様の判断で利用してください。
- また、資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。